

学校の共通目標

授業づくり	重点	全ての授業において I C T機器を日常的に活用し、これを用いて生徒自ら参加できる授業を展開し、全員が共有できる授業をめざす。	中間評価	全ての教科・教員が I C T機器をほとんど毎時間活用している。場面に応じて P C，プロジェクター、実物投影機を使い分けて工夫している。	最終評価	I C T機器を教員が活用するだけではなく、生徒が活用する場面が増えた。特にノートパソコンをグループごとの調べ学習に用いて、その結果をもとに意見交換を行う機会をつくり、学習意欲の向上につながっている。
環境づくり		毎時間の授業のねらいや到達目標を明示し、全ての生徒がわかる授業を展開する。		ホワイトボードに「本時の目標」「課題」「暗記事項」のキーワードを貼り、全員の生徒が共有できるようにしている。		今学習していることがどんなことで、何がわかったのかを視覚的に訴えることで基礎学力の定着に効果を得ている。

教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
国語	調 ・（３学年）各分野でおおむね目標値を超えることができた。領域別平均正答率では、ほとんどの分野で、区、全国を上回る結果となったが、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国をわずかに下回る結果となった。 ・（２学年）領域別平均正答率では「話すこと・聞くこと」において区を下回り、「書くこと」では区、全国を下回る結果となった。 学 ・授業開始 5 分間の漢字学習は定着してきたものの、家庭学習の定着が必要である。 ・「話すこと・聞くこと」においては、語彙の少ない生徒が多く見られた。「聴く」力にも課題がある。 ・「書くこと」は自分の言葉で自分の意見を述べることに慣れていない、ということが顕著に表れる結果となった。	・３学年では「話すこと・聞くこと」に、２学年では「書くこと」にとくに課題が残った。 ・３学年では、全体的におとなしい生徒が多いが、読み取ったことや考えたことを自分の言葉で表現することに苦手意識を持っている生徒が多い。また、相手の言葉を理解して「聴く」ことも課題として残る。 ・２学年では、板書を写すことはできるものの、自分の意見やメモなどを活用する力に課題がある。また、長文を書く機会も少なく、論理的に文章を組み立てる部分に課題が残る。 ・３学年、２学年共通して、きちんとした構成の文章を書く機会が日常的に少ないことが課題である。	・授業の中での発表だけでなく、グループワークや日常生活の中でも「話すこと・聞くこと」を意識付けさせる取り組みを行う。 ・語彙を増やすため、様々な作品に触れさせる。 ・発表の場面を増やし、話す態度や聞く態度などの指導も細かく行い、生徒一人一人に自信を持たせる場面を作っていく。 ・俳句や短歌などの短文から、感想文などの長文を多く書かせる。校内だけでなく外部団体への出品などを通して、書くことに慣れさせていく。 ・時数を制限した文章を、正しい構成で書く機会を意識的に増やしていく。また、書いて文章をお互いに鑑賞し合う機会を設け、それを自らの推敲につなげていく。	・グループワークを取り入れ、生徒たちが互いの作品の読みや考え方を交流し、その違いを受け入れながら読みを深めていく指導を行った。 ・教科書にある題材だけでなく、現状の課題、生徒の状況に合わせて広く題材を求め、指導した。 ・発表活動を通して「相手意識」を持たせ、準備・表現する指導を行った。 ・全生徒に俳句、作文を書かせる機会を設けた。 ・ノートやワークシートの提出をさせ、既習事項の定着状況や生徒自身が考えをまとめられているかをチェックした。	・新宿区の学力調査の結果、一学年では総合的には目標値を上回り、とくに「書くこと」では区・全国の平均正答値を上回った。しかし、「話すこと・聞くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では目標値を下回る結果となった。この結果をもとに発表活動に加えて聞き取りのポイントを段階的に指導し、授業内でも聞き取りテストを実施するなどして改善をしていく。また、古典や文法といった知識の定着が必要な単元は、基礎的な部分を理解させ、反復練習させることで確実に定着につなげていきたい。 ・二学年では区の学力調査の結果、総合的には目標値を上回っていた。また、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」、「伝国」の領域で目標値を上回っている。しかし「書くこと」では目標値を下回っていた。これから授業内でも様々な題材を取り上げて書かせる活動を続けていく。
社会	調 ・昨年度の学力調査の結果、目標値を超えることができなかった。領域によって達成度にばらつきがある。 ・達成率が低い領域には 1 学期や 1 年次に学習したものが多くみられた。 ・観点では比較的知識・理解の項目の達成率が低い傾向が見られた。 学 ・社会科に対する学習意欲が全体的に低下している。	・知識の定着と家庭学習に課題がある。 ・文章での表現や記述が苦手な生徒が多い。 ・自ら積極的に発言する機会が乏しい。	・毎時間ごとの目標を明確にし、生徒に各時間の学習項目を意識させ知識の定着を図っていく。 ・ノートの作成を工夫させ、自分なりのまとめ方、表現の仕方を考えさせるようにする。 ・折にふれペア学習や、4 人の学習グループでの学習の機会をつくり、発言力の育成を図る。	・小テストやノートの点検などから、生徒の学習意欲は徐々にではあるが、上昇しているように思える。ただ基礎的な知識が定着しない生徒も多く、思考力と合わせてさらに定着を図っていく。 ・ノートを丁寧に点検し、より知識が定着するまとめ方になるよう助言する。 ・ワークシートを充実させ、資料読み取り能力や思考力の向上を図る。 ・基礎的なテストを繰り返していくことで知識の定着を図る。根本的な授業改善の取組を模索する。 ・今後とも、生徒同士が対話する機会を増やし、生徒の主体性を高められるように工夫する。	・毎時間必ず本時の目標を全体に示し、授業後のまとめ活動、単元ごとのまとめの活動に時間をかけるようにした。 ・ノートの取り方・まとめ方とワークシートの記入の仕方への助言、定期テストの再テスト、基礎的なテストの繰り返しで知識理解の向上を図ったところ、1 学年では区の標準からは。下回ったが、参考として前年の 1 学年よりは向上してきているので徐々に成果をあげてきている。2 学年は、前年に比べ教科の正答率で活用部分は大幅に上昇し、「思考・判断・表現」「資料活用の技能」の観点も向上した。ただ、基礎部分の定着に課題があり、「知識・理解」を含めて学習を深化させたい。 ・社会科の学習に対して、苦手意識が強いとしか思えないところもある。「深い学び」「主体的な学び」を取り入れる。
数学	調 ・（３学年）図形、関数の分野での目標値は越えている。図形の分野では高い正答率を出した。しかし、数と式分野については、目標値を下回り、課題が残った。 ・（２学年）全ての分野において、目標値を越えている。区の平均正答率より大きく上回っている。 学 ・習熟度別少人数展開を行っているが、未定着のクラスほど、授業に集中させることが課題である。また、提出物を出さない傾向にある。家庭学習にも課題があり、宿題を意欲的にやる生徒とやらない生徒の差がある。	・学習内容がその時間だけで、完結してしまい、計算手順だけを覚えようとするので、時間が経つと忘れてしまい、他の内容と結び付けて考えられない生徒がいるので、基礎学力の定着に結びついていない。また、分からない問題を聞いたり調べたりする力に課題が残る。 ・家庭学習をする習慣がついていない生徒が多い。	・図形分野・関数分野も含んでいる計算問題を、授業の開始 5 分で毎回行う。 ・ノートの作り方を定型化し、どのような生徒にとっても分かりやすい板書計画を立てる。 ・習得・活用・探究の学習過程全体を見渡ししながら、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の三つの視点に立った活動を取り入れる。 ・小テスト、宿題を各学期に定期的に行い、評価をする。	・習熟度クラスによっては、計算問題の時間を短縮して授業内容の時間を確保する。 ・定期テストや小テストの結果を受けて、個別指導が必要な生徒を放課後に残して再テストを行った。	・定期的に小テストを行ったり宿題を出したりして、家庭学習を促進させた。また、その結果によって補習を行うことで基礎学力の定着を図った。家庭学習を促進することで、授業内に発展問題に取り組む時間やグループ学習の時間を確保することができた。 - 区の学力定着度調査の結果では、中学 1 年生はすべての観点で目標値を超えて、その効果を示すことができた。2 年生では、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」の観点で目標値を超えることができた。

理科	調 ・ほぼすべてにおいて区の平均正答率を下回っている。 ・観点別で見ると、第3学年では、「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」の正答率が区の正答率を若干上回っているのに対し、第2学年では全ての観点で区の正答率を下回っている。 学 ・授業では与えられた課題に意欲的に取り組んでいるが、基礎・基本的な知識、技能が確実に定着していないため、自信がもてない生徒が多い。授業中の発言や発表などの活動を通して、自信をもって授業に臨むことができるよう配慮している。 ・理科的な内容に興味をもっている生徒も多くいるが、理科の授業で学ぶ内容について、意味理解が十分でない。一方で、理科に関する興味・関心そのものが不足している生徒もいる	・意欲的に学習に取り組む生徒と、関心・意欲の低い生徒の差が大きい。 ・比較的興味・関心の高い生徒であっても、基礎・基本的な知識、技能が身についていない場合が多い。 ・観察や実験の結果から筋道を立てて考察し、自分の言葉で表現することが苦手な生徒が多い。	・意欲的に学習に取り組む生徒をふやす。 ・興味・関心を高める題材の工夫。授業の内容がわかった、できたという成功体験をふやす。 ・基礎・基本的な知識、技能を確実に定着させる。 ・ノート指導を定期的に行う。問題演習を定期的に行い、知識の定着をはかる。 ・観察や実験の結果から筋道を立てて考察し、自分の言葉で表現する経験をふやす。 ・グループでの話し合い活動などを取り入れる。	・ノート・ワークシートなどの点検を行うことで、ノートを丁寧に書くことができる生徒と、そうでない生徒がはっきりしてきた。学習の記録をとる習慣が身に付いていない生徒に対し、丁寧な指導を引き続き行う。 ・問題演習を通して基本的な知識・技能の定着に努めている。それとともに、単に答えを覚えるだけの学習にならぬよう、引き続きレポートや言葉で発表する活動などを通して言語活動の充実を図り、学習事項の意味理解を深め、問題文の意図を確実に読み取る力を身に付けることなどにつなげていきたい。	・ノート指導を継続的に行うことで学習内容をていねいに記録する習慣がついてきた。学習習慣の定着および家庭学習の際のよりどころとして、ノートを活用する意識を引き続き高めていきたい。 ・同じ内容でも、出題方法によって正答できる場合と、そうでない場合がある。出題形式を工夫して、生徒が正解することで達成感を味わい、自信をもって学習に取り組むことができるよう配慮した。 ・レポートやグループでの話し合い活動をとおして、言語活動の充実を図り、学習内容を自分のことばで表現する機会を増やすことができた。
	調 （3学年） ・リスニングの力、語彙の理解と語形・語法の知識・理解は区正答率並みに力がついている。英作文の力は区正答率よりも数値が上回っている。ただし、長文を読む力が下回っていた （2学年） ・全体的に、区の正答率を大きく上回っている。学年全体は基礎的な力が付いており、特に、場面に応じて書く英作文の力は付いている。ただし、3文以上の英作文を書かせる問題は区の正答率を少し下回っている。また、語彙力が不十分である。 学 ・全学年、小テストなどは努力している姿が見られるが、提出物に関してはいつも同じ生徒が出せていないことがあるので、言葉掛けを行っていく必要がある。授業中は積極的に発言を行っているので、全生徒が発言できるよう配慮している。	・各学年、教科書の本文・単語等の発音と意味を確実に覚えさせて、書く指導にも力を入れていく必要がある。 ・授業では書かせる時間を十分にとることができないので、家庭でできる課題の工夫が必要である。 ・長文（対話文・説明文）を読む力を付けることが必要である。特に、代名詞に気を付けて5W1Hを意識させて正確に読む機会が大切である。 ・コミュニケーションの能力を伸ばすために会話に関する情報収集や自分の感情・気持ちをまとめることに課題がある。 ・各学年とも小テストを計画的に実施し語彙力を付けていきたい。	・授業中に生徒が英語を発音する機会・時間を増やし、スピーチやスキットなど、テーマや場面を設定した中で、感情をこめて発表ができるように指導する。 ・授業の復習となるような、書かせる宿題を生徒の負担にならないように出す。 ・教科書以外の長文（文章）にも触れる機会をもつ。 ・ALTの先生との授業ではコミュニケーションの時間を増やし、生徒の主体性を伸ばし、間違いを恐れない態度を養う。	・ノート、ワークの点検を行うことで、日々の学習を定着できているように感じる。 ・スピーチテスト、スキットテスト、インタビューテスト、音読テストを各学年で行い、書くテスト以外の小テストを行うことで、話す・聞く・発音の力をつけるようにしている。 ・各学年のオリジナルワークシートで文法的な基礎力を付けている。 ・ALTの授業のときには、会話練習を中心とした表現力やコミュニケーションの力をつけるようにし、使える英語を目標としている。	・一年を通して、ICTを活用した授業を行い、デジタル教科書を用いた授業はもちろんのこと、オリジナルのパワーポイントを使った授業や画像、映像を取り入れた授業など、積極的に行うことができた。 ・スピーチテスト、スキットテスト、インタビューテスト、音読テストなど、「書く」以外のテストを行うことによって、表現力や発音などの力を養うことができ、基本文はもちろんのこと、自ら工夫した発表を聞くことができた。 ・家庭学習の定着ということで、予習やプリントの課題を出し、英語を書かせることに重点を置いたが、1回覚えたことを定着させるためのワークシートを来年度も考えていきたい。 ・2学年は読解力が足りない点も見られるため、基本となる単語の習得と演習問題に取り組み方を考慮したい。 ・3学年は教科書以外の英文を読む時間を設け、特に1・2月に行った模擬トレ（都立対策演習）の採点をしていると、以前よりも長文を読むスピード速くなり、正答率もかなり上がった。 - 学習意欲を高める教師の授業力の向上と、 - 日頃からテストに頼らない活動・授業の工夫が大切である。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。